

第2学年 国語科学習指導案

指導者

1. 日時 令和5年10月24日(木) 第5校時間(13:40~14:25)
2. 学年・組 第2学年2組(26名)
3. 教材名 かたかなで書くことば

4. 教材観

片仮名は、平安初期に、学僧たちの間で、万葉仮名を簡略化して用いたところに発すると考えられている。現在では、主に外来語(ギョーザ、ナイフ、ノート等)や擬声語(ゴーン、ドタドタ、ガタガタ等)・擬態語(ベツリ、キラキラ、ツルン等)などに用いる。和製英語も外来語に含む。児童にとって、片仮名は身近であるのにも関わらず、片仮名の使い方を見つめなおす機会は少ない。本題材は、身近な言葉から片仮名を使っている言葉を見つけ、片仮名を使う言葉の種類に気づき、片仮名を正しく使えるようになるために適した教材である。

本単元は、これまでの学習で身に付けた片仮名が、どのような言葉の種類に対して使われているのかを知り、片仮名を適切に使用して文章を書くことができる実践的な方法を学んでいく。

5. 児童観

本学級の児童は、1年上巻の「かたかなをみつけよう」で片仮名を学習している。生活の中では幼い時から「ママ」「パパ」「スプーン」「フォーク」「バス」等、たくさんの片仮名に囲まれており、短文を書く(誰が何をどうする)ことは随所で経験している。また、朝読書の時間や図書館での読書で、片仮名の大体を読んだり書いたりできる児童も複数いる。しかし、実際に文中で使えるようにするという点では課題がある。例えば、日記や国語科の言語活動において、「アドベンチャー」と片仮名と平仮名が混ざったり、生活科の授業において「こっぷ」と平仮名で書いたりするところから誤った表現が見られる。片仮名を書くことに慣れていない為、書き順の誤りがある児童や片仮名が分からない児童もいる。

6. 指導観

片仮名を正しく用いるために、語彙の種類について意識させる必要がある。「どうぶつの鳴き声」と「いろいろなものの音」は、擬音語である。「外国から来たことば」と「外国の国や土地、人の名前」はもともと外国語だったものとしてまとめることができる。片仮名で書く言葉を考えさせ、実際に片仮名で書かせて長音符号や促音にも注目させたい。また、教科書の言葉以外の例を積極的に集めるようにしたい。また、文を作らせる時には、「私はとびらをガラガラと閉めました。」のように「と」を加えたりすることや、「だれが」「どうする」「どんなだ」と主語と述語の呼応関係のある文を明記するよう指導したい。

7. 単元の目標

知識・技能: 片仮名を書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。

思考力・判断力・表現力等: 書くことにおいて、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。

主体的に取り組む態度・人間性等: 積極的に片仮名で書く語の種類を知り、今までの学習を生かして、片仮名を使って文章を書こうとすることができる。

8. 単元の評価規準

知識・技能	片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこととは、擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語などの片仮名で書く語がどのような種類であるかを知り、実際に文や文章の中で片仮名を使うことを示している。
思考力・判断力・表現力等	書くことにおいて、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	積極的に片仮名で書く語の種類を知り、今までの学習を生かして、片仮名を使って文章を書こうとしている。

9. 指導計画(全2時間)

時間	活動内容	評価
1	片仮名で書く言葉の種類を知る。	知識・技能: 片仮名を読み、擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語などの片仮名で書く語がどのような種類であることを理解している。 主体的に取り組む態度・人間性等: 積極的に片仮名を探している。
2	片仮名で書く言葉を使って文をつくる。	知識・技能: 片仮名で書く言葉を使って文や文章をつくることができる。 思考力・判断力・表現力等: 書くことにおいて、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 主体的に取り組む態度・人間性等: 今までの学習を生かして、片仮名を使って積極的に文をつくろうとしている。

(1) 本時の目標

片仮名で書く言葉の種類を知ることができるようにする。

(2) 本時の評価

知識・技能: 片仮名を読み、擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語などの片仮名で書く語がどのような種類であることを理解している。

主体的に取り組む態度・人間性等: 積極的に片仮名を探している。

(3) 本時の展開

	学習活動	主な発問(○)と児童の発言(・)	留意点(●)、支援(◎)	評価の観点
導入 13:40	1. 片仮名で書く言葉を振り返る。本時のめあてを確認し、ノートに書く。(5分)	○これまでさまざまな言葉を、片仮名で書いたり、読んだりしてきましたね。どんな言葉がありますか。 ・ゲームです。 ・スプーンです。	◎やることを確認することで、本時の見通しを立てることができるようにする。	
13:45	めあてかたかなで あらわすことばを知ろう。			

展開 13:45	2. 音楽の教科書の中から、片仮名で表す言葉を見つけ、付箋に書いてノートに集める。(4分)	○では、音楽の教科書の24・25ページを開いて片仮名を見つけましょう。見つけた片仮名は付箋に書いてノートに貼りましょう。 ・ドレミファソラシド ・ドイツ ・クワックワツ ・ケロケロ ・フレーズ ○次は教科書の62・63ページにある片仮名を見つけましょう。 ・ピューピュー ・ブーンブーン ・リーンリーン ・ドーンドーン	◎付箋を用意し、音楽の教科書の中から見つけた片仮名をノートに貼ることで、机の上が散乱しないようにする。 ●付箋に言葉を書く時は縦書きで書くように指導する。	積極的に片仮名を探している。(態)
13:49	3. 教科書から見つけた言葉を発表する。(3分)	○教科書の中から見つけた片仮名を発表しましょう。		
13:52	4. 教師によって、仲間分けされた言葉を見て、どんな仲間分けなのかを考える。(3分)	○発表された片仮名を仲間分けしました。それぞれどんな共通点があって分けたでしょう。 ・音です。 ・外国です。	◎仲間分けをする際に、4つのグループを意識して板書することで、児童がそれぞれの共通点や他のグループとの違いを見つけやすいようにする。	
13:55	5. 4つの片仮名で書く言葉の種類を確認する。(8分)		◎片仮名の単語だけでなく、文で説明し、片仮名で表現する言葉の種類が4つあり、それぞれの違いを理解できるようにする。	
14:03	6. グループで1つの画用紙に集めた言葉を仲間分けする。(3分)	○では、片仮名を使う言葉を4つの種類に分けてみましょう。	●絵や物を提示してどんな音に聞こえるかを聞いたり、どの仲間に分類できるかを考えたりすることで例を挙げ、片仮名で書く言葉を理解できるようにする。 ◎黒板で仲間分けをした後に種類を提示することで、自分の付箋の仲間分けができるようにする。	

14:06 14:16	7. グループで、知っている片仮名で書く言葉を集める。(10分)	○それぞれの仲間でほかになんか言葉がありますか。	◎どの仲間なのかわからない言葉はグループ全員で考えるように指導することで、児童らで片仮名を使う言葉を理解し分類できるようにする。 ◎学習した片仮名を使う言葉を念頭にさらに片仮名を見つけることで、誤った片仮名の仲間分けがないようにし、分からない場合は、児童同士で見合って確認できるようにする。	片仮名を読み、擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語などの片仮名で書く語がどのような種類であるかを理解できる。 (知技)
終末 14:16 14:21 14:25	8. 見つけた言葉にはどのような言葉があったか、発表をする。(5分) 9. 振り返りをノートに書く。次時の予定を聞く。(4分)	○片仮名で表す言葉には、どのような言葉がありましたか。 ○今日の国語の学習で気づいたことや疑問に思ったことなどを書きましょう。	◎次の学習について予告することで学習の見通しを持たせる。	

板書計画	10/24 かたかなで書くことは めあてかたかなで あらわすことばを知ろう。 どうぶつの鳴き声 - クワクワワッ - ケロケロ - ブーンブーン - リーンリーン - 犬が、ワンワンほえています。 いろいろなものの音 - ピューピュー - ドーンドーン - かねが、ゴーンと鳴りました。 - 外国から来たことば - ドレミファソラシド - フレーズ - 私は、メダルを首にかけてもらいました。 - 外国の、国や土地、人の名前 - ドイツ - ロシア - カナダ - アメリカ - サッカー - ノート - チョコレート - パンツ - ビリビリ - ガシャーン - メエー - モーモー - ホーホケキョ ③ かたかなで書くことばは、ゲロゲロなどのどうぶつの鳴き声があることがわかった。
------	---